

# V-style Ver.2 の新機能

## V-style 連携

### 画像サイズにパースサイズ、シーンに鳥瞰を追加

パーススタジオ向け、鳥瞰図向けの設定項目を追加しました。パーススタジオのモニタサイズが連携できるようになり、パーススタジオと同じイメージでレンダリングが可能になりました。

また、ARCHITREND ZERO Ver8 からのフォトモンタージュの背景やマスク設定が保持できるように改善しました。

※なお、V-style 上でフォトモンタージュの設定はできません。必ずパーススタジオで設定し連携してください。



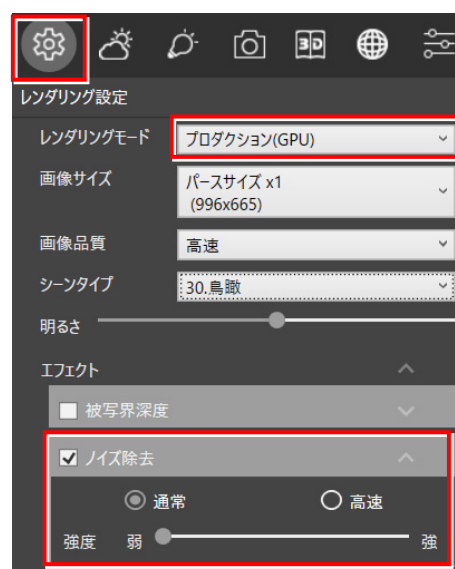
## レンダリング・効果関連

### GPU レンダリング時のノイズ除去

GPU レンダリング時、ノイズ除去にかかる負担を軽減できるように変更しました。

GPU レンダリングにおいてメモリ不足によるエラーを「ノイズ除去」の種類を選択することで軽減することが可能です。「インタラクティブ (GPU)」「プロダクション (GPU)」のレンダリングモード時、ノイズ除去を「通常」「高速」で切り替えることができるようになりました。

「通常」は、CPU を使用してノイズ処理を行います。「高速」は、GPU を使用してノイズ処理を行います。(高速でレンダリング時エラーになる場合、「標準」をお試しください)



## HDRI の太陽位置を感覚的に

背景の太陽位置に相当する方向を、方位角・仰角モニターで示すように変更しました。

HDRI の一番明るい位置の方向がわかるモニターを表示することで、明るく当てたい面や逆光にしたい場合など、HDRI の方向の調整を感覚的に操作できるようになりました。

スライダーで太陽位置調整ができます。

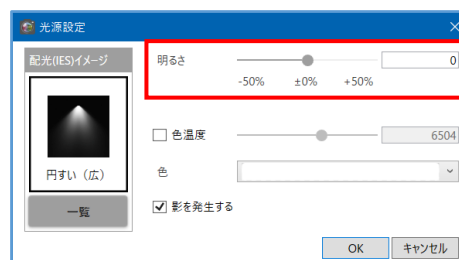
太陽マークで視覚的に分かり易く。



## 照明（光源・影）の表現改良

IES ライトのソフトシャドウに対応しました。

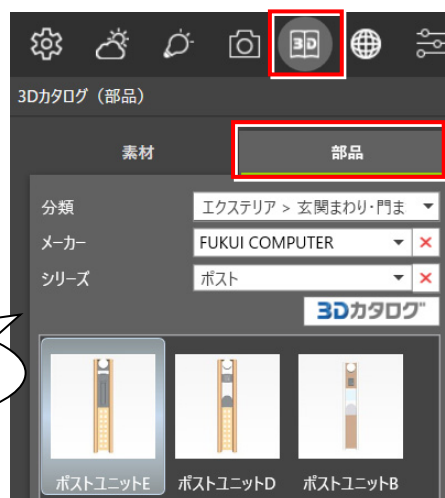
また、光源設定の「明るさ」スライダーの下に「±0%」、右に数値テキストボックスを追加しました。



### 3D カタログ部品の配置

3D カタログ部品を配置（入替）できるようになりました。

3D カタログサイトからダウンロードできます。



### 3D カタログ部品の移動・回転

3D カタログ部品を簡易的に移動・回転できるようになりました。

「選択」コマンドで対象部品を選択すると、移動・回転のコントローラーが表示されますので、各軸・回転ラインに沿ってドラッグしたり、数値入力したりすることで、指定部品を移動・回転がおこなえます。

XYZ 軸に沿って移動、回転ラインに沿って回転します。

数値入力枠



## 質感編集

質感の編集機能から素材の移動、回転、スケール変更ができるようになりました。

タイルなどの目地合わせや、フローリングの向き、テクスチャのスケールなどが編集できるようになり、細かい見栄えを調整することができます。

### Modelio のテクスチャ

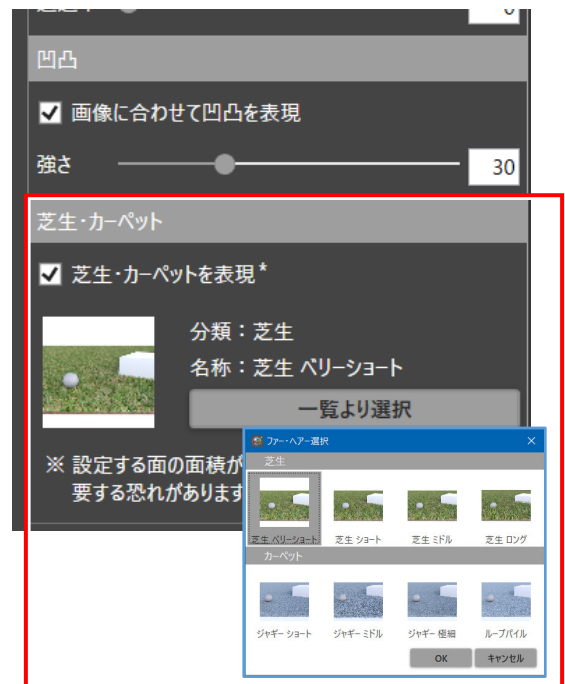
Modelio のポーチ素材等は、面選択モードの場合のみ編集が可能です。

### 編集不可能

部品・建具やカーテンなどの一部の立体はテクスチャ編集ができません。



また、芝生やカーペットのような毛羽立たせた表現が可能になりました。



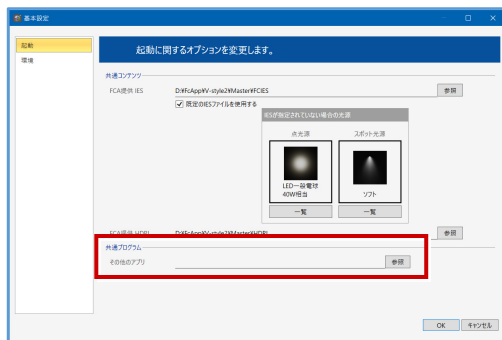
## 画像・印刷関連

### 画像編集

再レンダリングしなくとも、明るさ、色調、カラーバランス・レンズエフェクトなどを簡易的に調整できる機能を追加しました。別の画像編集ソフトで補正することなく、V-style 上で画像の編集ができるようになりました。

また、スマートフォンのカメラアプリに搭載されているような複数のフィルタを追加し、クリックするだけで画像に効果を与えることができます。

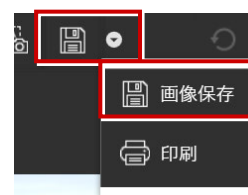
※メニュー形式を変更しました。従来の関連付けアプリを起動する機能は「その他のアプリで起動する」に名称変更しました。関連付けるアプリは「ツール」-「設定」で設定します。



### jpeg 保存形式（パノラマ情報）の追加

パノラマレンダリング画像やパノラマ連続レンダリング画像を JPEG 形式で保存することで、パノラマ画像と認識されるための情報を追加しました。

よって、URL 発行機能を使わずに SNS にアップロードすることで、パノラマ画像として認識できるようになりました。また、画像保存と印刷のメニューをプルダウン形式に変更しました。



PNR (\*.pnr)  
PNG (\*.png)  
JPEG (\*.jpg;\*.jpeg)  
BMP (\*.bmp)  
TIFF (\*.tiff)  
EXR (\*.exr)



## 状態・選択関連

### スポイト履歴

V-style 起動中は、物件間でスポイトの履歴が引き継げるようになりました。編集の手間を軽減します。



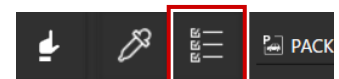
#### 履歴反映の制限

V-style の「ファイル」 - 「開く」 から開いたデータ間の場合のみ履歴が引き継げます。  
 連携し直した場合、履歴は削除されますのでご注意ください。



### 表示設定

全オブジェクト（素材・部品等）の表示／非表示を切り替えられる機能を追加しました。  
 一覧の各オブジェクトのチェックマークのオン/オフで切り替えることができます。  
 また、3D 表示上でデータをクリックしても、相当するツリー上のオブジェクト名へカレント表示されます。オブジェクト名が分からない場合は、3D 画面から指定することもできます。



例えば、外観レンダリング時は、余計な内観データを非表示にして処理を軽くする等をおこなうことができます。

